

株式会社ケー・エフ・シー

2025年3月期 決算説明資料

2025年6月4日



I . 決算概要・業績予想	P.3
II . 経営戦略	P.13

2025年3月期 実績総括

■2025年3月期 決算

売上高 260.7億円(前期比4.0%増) 経常利益 14.5億円(前期比15.2%減)

- 大型元請物件や土木耐震などの工事物件の受注、またトンネル掘削資材の高付加価値商品の順調な推移により増収
- 人件費をはじめとした販管費の増加の影響などにより、経常利益は前年同期比で減少

■2026年3月期 業績予想

売上高 265億円(前期比1.6%増) 経常利益 15.5億円(前期比6.2%増)

- 高付加価値商品の販売拡大および手持工事の堅調な推移、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大により増収増益の見通し
- 原材料価格や運送費の高騰、中期経営計画の各施策への取り組み強化により営業費は増加傾向

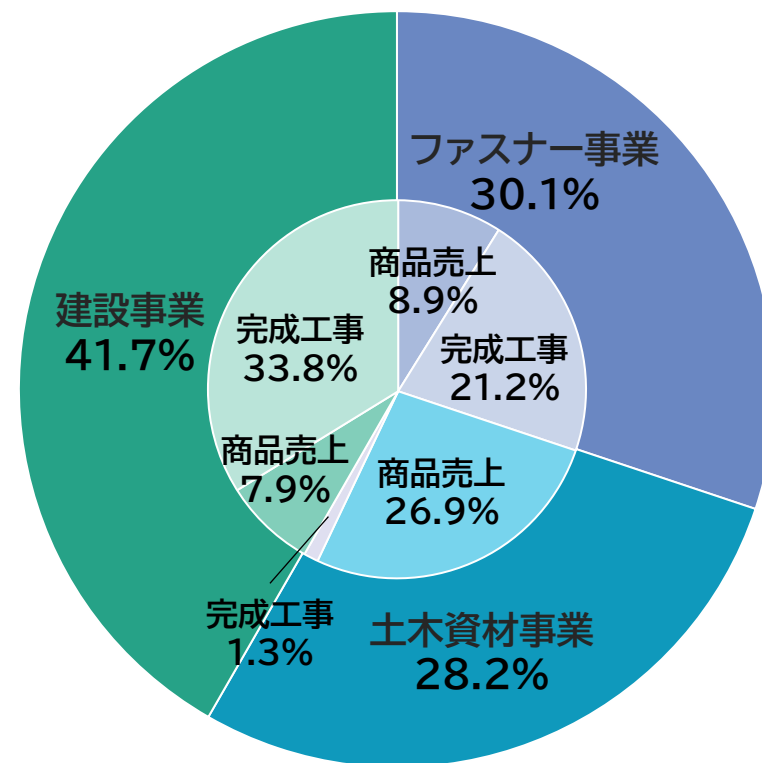
決算概要・業績予想



1. ケー・エフ・シーグループ概要

- 自社工事だから出来る現場視点での顧客ニーズを捉えた製品・技術開発による他社との差別化
- オーストリアからNATMを導入、独自技術に発展させたロックボルトや遮水シートなどトンネル掘削資材のトータル提案によりロックボルト販売全国シェア約60%（※2025年3月期、自社調べ）
- 現場ニーズを掴み、技術提案力を元に独自工法を開発、元請受注力を高め、全国での自社施工体制を構築。新設工事から補修工事までをこなし、緊急工事対応で顧客の信頼を得る

売上構成
(連結:2025年3月期 260億円)
※ セグメント間取引の調整をしております



建設事業

- トンネル内装及び耐火工事及び遮音壁設置工事等の環境工事の設計・施工
- 防護柵設置工事及び落下物防止工事等安全施設工事の設計・施工
- トンネル補強工事及びビル外壁補修工事等リフレッシュ工事の設計・施工
- トンネル内照明及び防災等設備工事並びに橋梁部設備関連工事の設計・施工

ファスナー事業

- 各種「あと施工アンカー」類の販売・施工
- 鋼材及び各種金物の製作・販売
- 耐震関連資材の販売
- 電動工具類及び付属ビットの販売
- 建築物等の耐震関連工事の設計・施工
- 道路及び鉄道橋脚等の耐震関連工事の設計・施工

土木資材事業

- ロックボルト等トンネル支保材料の製造・販売
- ドライモルタル等ロックボルト用定着材の販売
- トンネル用防水シート及び附属品並びに溶着機等施工機械の販売
- ウレタン注入剤等トンネル用岩盤固結剤及び注入機等施工機械の販売並びにレンタル
- 遮水シート、防水シートの輸入販売、設計、施工

2. 2025年3月期決算実績

①決算概要総括

業界環境

- 公共建設投資額は堅調なものの、世界的な物価高の影響や慢性的な人材不足、建設DXの停滞など業界の課題は解消しておらず、リスクの内在する不透明な事業環境は継続

売上面

- 土木耐震関連工事の受注増加(ファスナー)、高付加価値製品の販売が伸長(土木)、大型元請物件の竣工(建設)により増収

連結売上高 26,073百万円 ※セグメント間取引調整後の金額 前期比 +1,002百万円 +4.0%	ファスナー事業	8,173百万円	+442百万円 +5.7%	■ 民間施設の耐震補強工事の受注増 ■ 上下水道施設耐震補強工事の順調な受注 ■ 商品販売の前年度並み受注
	土木資材事業	7,646百万円	△549百万円 △6.7%	■ ロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少 ■ 特異な地山性状に対応する特殊ロックボルトや重金属対策資材の販売が伸長
	建設事業	11,309百万円	+1,178百万円 +11.6%	■ コンクリート構造物補修工事等をはじめとする大型物件が竣工

利益面

- 販売価格の適正化が進捗しつつも、原材料価格の高騰や人件費の増加により減益

連結経常利益 1,459百万円 前期比 △261百万円 △15.2%	ファスナー事業	705百万円	△16百万円 △2.3%	■ 原材料価格の高騰に伴う適正価格への転嫁は進む ■ 人件費の増加
	土木資材事業	395百万円	△94百万円 △19.3%	■ ロックボルトやトンネル補助工法の資材販売の減少 ■ 原材料価格の高騰に対応した販売価格は浸透
	建設事業	359百万円	△150百万円 △29.5%	■ 管理者不足による社員の採用に係る原価増 ■ 原材料価格、労務費、運送費の高騰

2. 2025年3月期決算実績

②セグメント毎実績

ファスナー事業

- 官民建築耐震関連工事が顕著に発注され売上が増加(前期比65.0%増)
- 土木耐震補強工事も順調に受注し前期並み
- 販売は前期並みに受注

<主要施工・納品実績>

- 令和5年度小和瀬発電所導水路改良工事
- 水元給水所耐震補強工事
- 鶴舞線庄内緑地公園可動式ホーム柵設置工事
- 北山田浄水場配水池耐震補強工事
- 島田高等学校管理教室棟耐震補強他工事
- 旧広島陸軍被服支廠1号棟ほか2棟安全対策工事
- JA福山耐震補強工事

土木資材事業

- 新設トンネル発注物件は全国的に減少傾向
- 商材の販売シェアは堅調に推移
- 地方自治体、電力などでトンネル補修工事物件は増加傾向
- 重金属対策資材が伸長
- 原材料価格や運送費の高騰は継続

<主要納品実績>

- 北海道新幹線トンネル 各現場
- リニア新幹線トンネル 各現場
- 山形県鼠ヶ関トンネル
- 神奈川県高松トンネル
- 三重県養老トンネル
- 大分県日田山国トンネル

建設事業

- トンネル覆工補強工事をJVにて施工中
- 大型コンクリート構造物補修工事、トンネル設備工事の受注
- 原材料、運送費等仕入れコストの高騰

<主要施工実績>

- 長野自動車道(特定更新等)岡谷トンネル覆工補強工事
- 仙台東部道路 館腰橋補修工事
- 首都圏中央連絡自動車道 幸手西遮音壁工事
- 常磐自動車道 R5仙台東管内構造物補修工事
- 令和4年度 中国自動車道(特定更新等)千代田高速道路事務所管内構造物補修工事
- 令和4年度 中国自動車道 山口高速道路事務所管内(西地区)構造物補修工事
- 中央自動車道 土岐IC～小牧東IC間コンクリート構造物補修工事(2021年度)
- 新東名高速道路 小山PA～新御殿場IC間遮音壁工事

2. 2025年3月期決算実績

③貸借対照表（B/S）（連結）

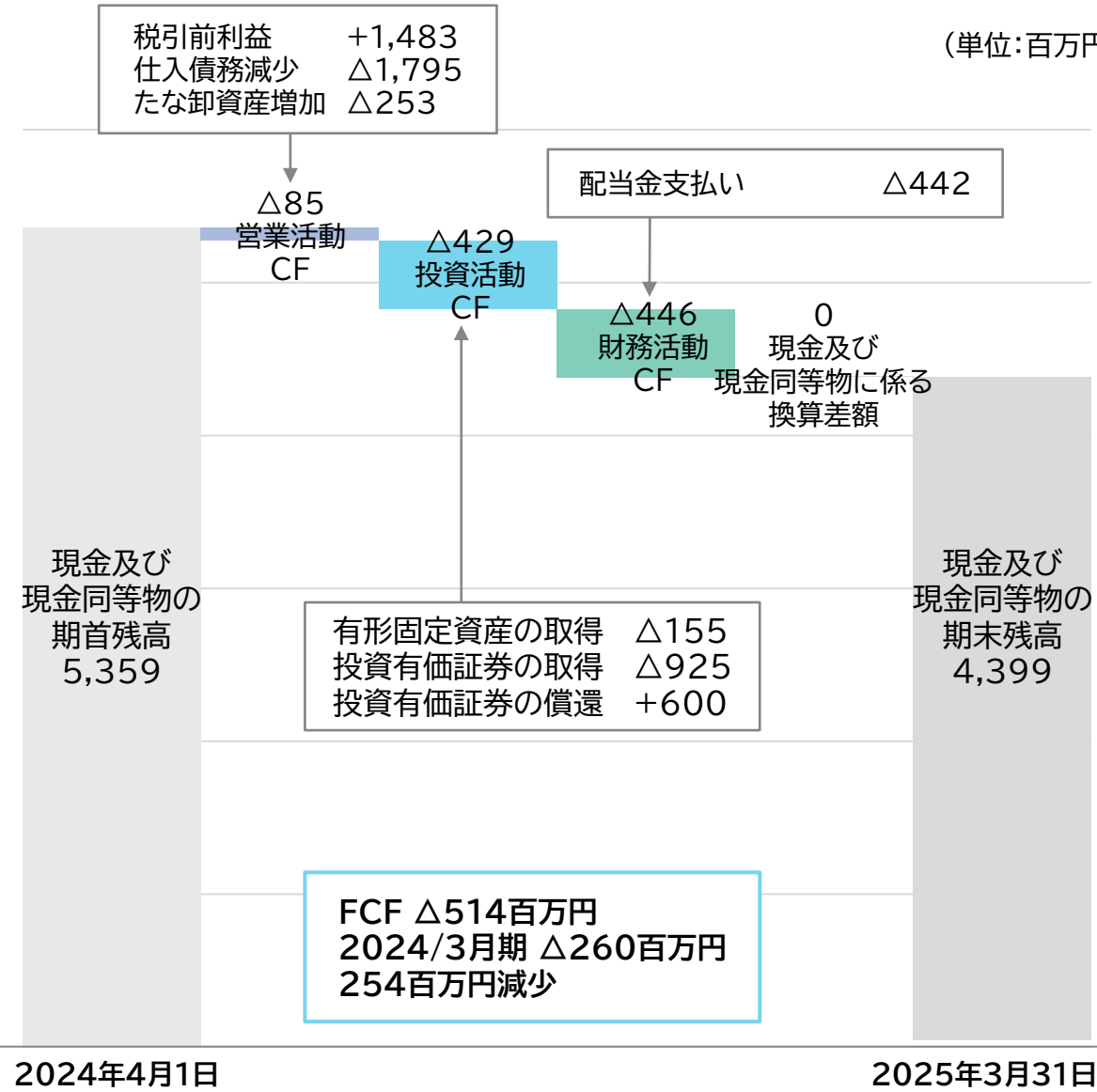
（単位：百万円）

	2024年3月期	2025年3月期	増減額	コメント
流動資産	19,671	18,719	△951	
現金及び預金	4,459	3,599	△860	■ 下請法の要請に伴う支払いサイト変更などの影響により現預金残高が減少
受取手形及び 完成工事未収入金等	9,825	9,495	△330	
その他流動資産	5,386	5,625	239	
固定資産	9,947	10,121	174	
有形固定資産	4,871	4,862	△8	
無形固定資産	342	283	△59	
投資その他の資産	4,732	4,974	241	
資産合計	29,618	28,841	△777	
負債合計	9,002	7,591	△1,410	■ 下請法の要請に伴う支払いサイト変更などの影響により支払い債務が減少
（借入金残高）	490	490	0	
純資産合計	20,616	21,249	633	
負債純資産合計	29,619	28,841	△777	

2. 2025年3月期決算実績

④キャッシュ・フロー計算書（連結）

	2024年3月期	2025年3月期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	3	△85	△88
投資活動による キャッシュ・フロー	△263	△429	△165
財務活動による キャッシュ・フロー	△371	△446	△74
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1	0	△1
現金及び現金同等物の 増減額	△630	△960	△330
現金及び現金同等物の 期首残高	5,989	5,359	△630
現金及び現金同等物の 期末残高	5,359	4,399	△960



3. 2026年3月期業績予想

①業績予想のポイント

売上面

- 高付加価値商品の販売拡大、土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大、手持工事の堅調な推移により増収の見通し

連結売上高 26,500百万円 前期比 +426百万円 +1.6%	ファスナー事業	8,900百万円	+726百万円 +8.9%	■ ニーズに対応する商品の提案営業などソリューション販売の強化 ■ 人手不足・省力化対策など高付加価値商品の販売拡大 ■ 官民建築・土木耐震補強工事の受注
	土木資材事業	7,850百万円	+203百万円 +2.7%	■ 補助工法物件の受注 ■ トンネル補修工事物件の受注 ■ 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念
	建設事業	9,750百万円	△1,559百万円 △13.8%	■ 大型元請工事、トンネル補修補強・設備工事等の提案営業・受注強化

利益面

- 原材料価格や運送費の高騰は継続、また設備投資や人件費の増加(共通)が見込まれるが、高付加価値商品の販売拡大、コスト管理の徹底により増益の見通し

連結経常利益 1,550百万円 前期比 +90百万円 +6.2%	ファスナー事業	740百万円	+34百万円 +4.9%	■ 原材料価格の高騰に伴う適正販売価格への転嫁 ■ 省力化対策製品の技術開発 ■ 労務費原価の管理強化
	土木資材事業	340百万円	△55百万円 △14.1%	■ 原材料価格の高騰 ■ 技術提案商材・新規商材による収益改善
	建設事業	470百万円	+110百万円 +30.9%	■ 工事実行予算の見直し・精査による適正な利益率への改善

3. 2026年3月期業績予想

②セグメント毎業績予想ポイント

ファスナー事業

- 官民建築耐震補強工事の順調な発注と受注
- 土木耐震補強工事の順調な受注(前期並み)
- 原材料価格高騰による適正価格への転嫁
- 人手不足問題、省力化に対するICT技術への取組



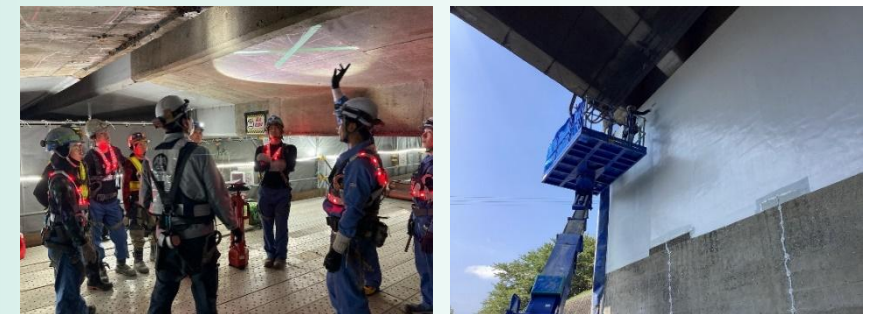
土木資材事業

- 独自工法・資材を活かした補助工法の受注強化
- トンネル補修工事、重金属など環境対策資材の受注強化
- 技術提案商材・新規商材の受注強化
- 多発する自然災害復旧等による発注遅れの懸念



建設事業

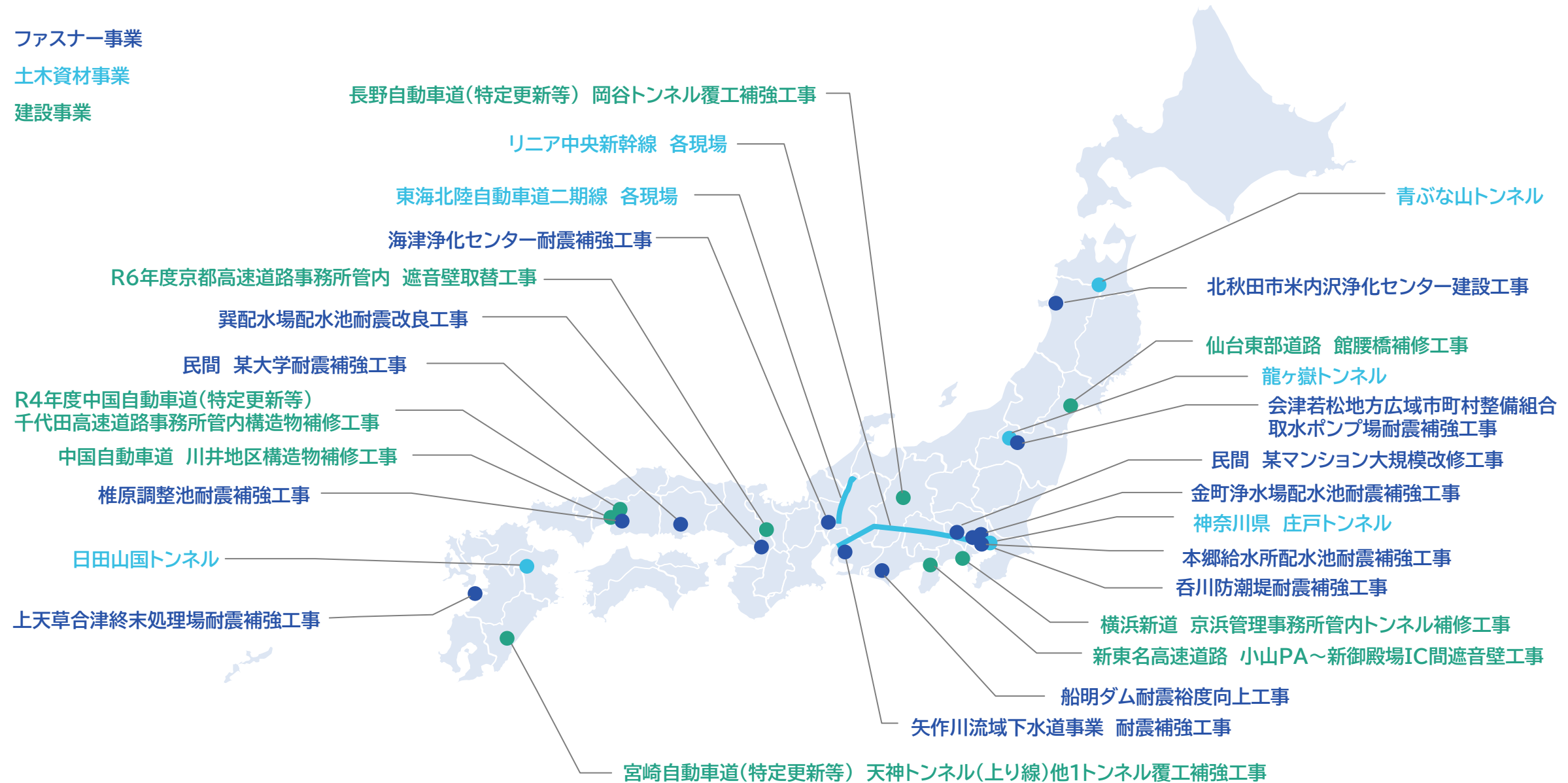
- 全国的なインフラ補修・補強工事の発注は継続
- 元請受注拡大のため企業価値の向上を最優先
- 原材料価格等コスト、労務単価の高騰
(連結子会社アールシーアイ)
- 東日本エリアにおける鉄道橋脚一面耐震補強工事の需要拡大
- 道路橋脚一面耐震補強工事の選択営業強化



3. 2026年3月期業績予想

③主要物件の状況

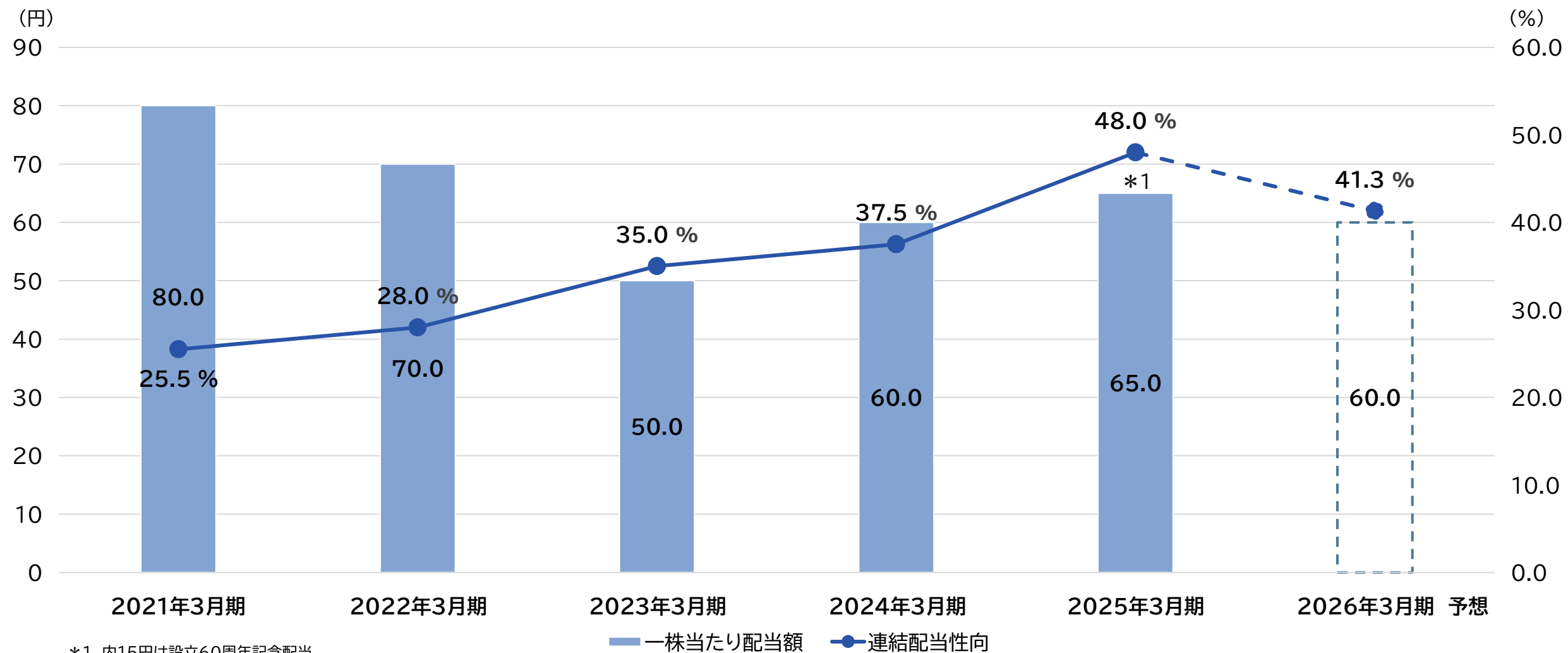
- ファスナー事業
- 土木資材事業
- 建設事業



4.株主還元・配当方針

配当推移

- 強固な財務基盤を維持しつつ、安定的かつ継続的な利益還元を重視することを基本とし、株主還元の充実を目指します
- 中期的目標は、連結配当性向40.0%とします



Ⅱ.経営戦略



1.事業環境認識

■ 建設市場を取り巻く環境

建設投資

- 2025年度建設投資は前年度比1.3%増の74兆9,300億円の見通し
建築:48兆9,400億円(前年度比1.3%増)、
土木:25兆9,900億円(前年度比1.4%増)で引き続き堅調な投資が継続
- 2025年公共事業関係費は6兆858億円(前年度並み)で安定的な確保。
国土強靱化関係予算は4兆706億円(前年度比0.9%増)。能登半島地震等の教訓を踏まえ、上下水道の急所施設の耐震化や、全国の盛土区間の大規模崩落を防ぐためののり面対策などについて、個別補助化により重点的に支援を実施

資材価格動向

- 建設資材物価指数は、全国平均で140.0(前年同月比3.1%増)。特に土木部門では指数が144.0(前年同月比4.4増)に達し、依然として高騰傾向が継続
- 世界的な需給バランスの変化や為替の影響、原材料・エネルギー価格の動向などを要因に、建設資材価格の高騰は2025年以降も続く可能性が高い
⇒ コスト管理の徹底、代替資材の活用、技術革新の推進

建設就業者動向

- 建設技術者、技能労働者の慢性的不足により、労務単価は過去最高を更新
- 2022年以降、離職者が入職者を上回る傾向。高齢化、若年層の減少により、人材不足の高止まりが長期化
⇒ 人材育成や技術継承の仕組みづくりの必要性
⇒ 魅力ある業界への変革が急務。労働環境の整備や生産性の向上、多様な人材の活用に向けた取り組みが重要

その他

- デジタル化の遅れと『2025年の崖』
⇒ 確かな現場ニーズを踏まえた建設DX、BIM・CIM対応に向けた積極投資
⇒ 現場でのデジタル技術活用の促進およびデジタル教育の推進
⇒ DXを推進するためのIT人材やデジタル技術に精通した人材の確保
- サステナビリティの社会ニーズに対応した技術開発や新規事業の創出
⇒ 成長エンジンである継続的な「新規事業の創出」の実現
⇒ 気候変動リスクの軽減(カーボンニュートラル)に寄与する技術開発
⇒ 投資戦略の明確化(M&A、アライアンスの活用)

2.中期経営計画骨子

- 時代の要請に応え、起こりうる変化に適応し、持続的に成長可能な企業を目指します
- 中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉では、前中計で築いた土台をより強固にし、次の成長ステージの事業基盤を拡充する期間と位置付け、DX・人的資本経営・成長投資の拡大により資本効率を向上させ、さらなる組織力強化と生産性向上を図りながら、中長期的な企業価値の向上に邁進してまいります。

技術の力で人と未来を支える

2027年3月期目標

2024年3月期実績

売上高 250億円
経常利益 17.2億円
経常利益率 6.9%

中期経営計画
基本方針

持続的成長

新規事業の創出

業務の効率化

内部体制の強化

売上高 270億円
経常利益 16億円
経常利益率 5.9%

売上高 300億円
経常利益 21億円
経常利益率 7.0%

前中計(事業基盤の構築)

中期経営計画〈2025年3月期～2027年3月期〉

継続した変化と成長

2031年3月期目標

ESG経営の推進(環境・社会と共存できるサステナブルな事業体制の構築)

3.中期経営計画 経営指標

	前中期経営計画	中期経営計画<2025年3月期－2027年3月期>			
	2024年3月期 実績	2025年3月期 目標	2025年3月期 実績	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
売上高 (百万円)	25,070	26,000	26,073	26,500	27,000
経常利益 (百万円)	1,720	1,400	1,459	1,550	1,600
経常利益率 (%)	6.9%	5.4%	5.6%	5.8%	5.9%
配当性向 (%)	37.5%	38.9%予想	48.0%	40.0%	40.0%

4.中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉での取り組み

セグメント別の進捗・成果

セグメント	2025年3月期の進捗と成果	経常利益(百万円、%)			
		2025年3月期 目標	実績	2026年3月期 目標	2027年3月期 目標
ファスナー事業	■ 土木耐震せん断補強(RMA)の新規市場への拡大 ■ 工事管理体制の連携・強化、施工管理技士資格者の増加 ■ 部門間連携強化により、開発新商品『ZIKMO』の市場拡充や社内JVでの補強・補修工事の受注 ■ 検査成績書類の電子化により、業務効率の向上	670 (7.6%)	705 (8.6%)	740 (8.3%)	760 (8.4%)
土木資材事業	■ 施主・コンサル・ゼネコンへの営業強化により、トンネル補修工事、重金属対策の実績増加 ■ 技術提案対応の強化により、設計外補助工法における高機能商品の拡販 ■ 「ウレサポ」、「SMERTチェッカー」等、資機材のICT化が進む	300 (3.9%)	395 (5.2%) ※設計外補助 工法の受注 により利益増	340 (4.3%)	360 (4.4%)
建設事業	■ 2025年1月より勤務間インターバル制度を導入 ■ 災害協定や災害時の協力(4件)など施主が求める企業の信頼性・社会性の向上に向けた取り組み強化 ■ 施主・コンサルへのスバック営業強化、および地元有力業者との協力体制の強化 ■ 拝受した優良工事表彰の受賞要因の分析を実施し、周知・教育 ■ IOTを活用した現場管理推進と管理書類の簡素化により作業効率の向上	430 (4.5%)	359 (3.2%)	470 (4.8%)	480 (4.8%)

4.中期経営計画〈2025年3月期-2027年3月期〉での取り組み

<人的資本経営の強化～人材の活躍と成長に向けて>

- 当社は2025年3月期からスタートした中期経営計画における重点分野の一つとして『人的資本経営の強化』を掲げ、事業環境の変化に柔軟に対応できる組織風土の醸成と人材の育成を図るとともに、従業員一人ひとりが心身ともに健康で生き生きと働き、持てる力を発揮できる職場環境の整備に取り組んでおります

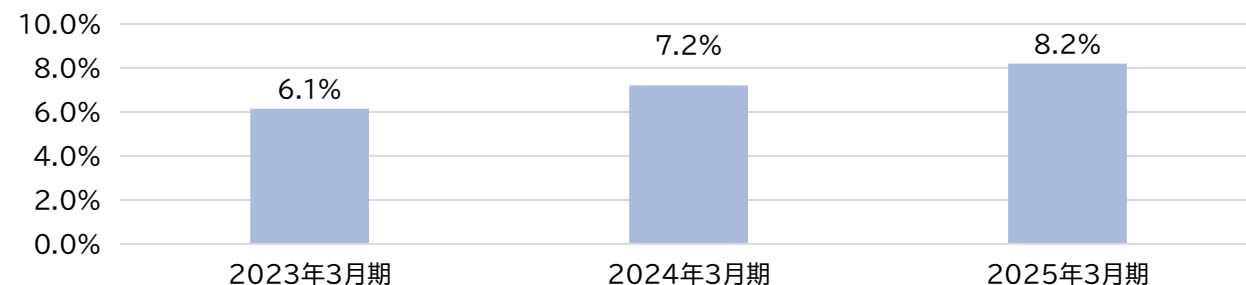
女性の活躍推進への取り組み

「えるぼし(3段階)認証の継続」

- 当社は「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の5つの基準の全ての基準を満たし、女性活躍推進の優良企業として、厚生労働大臣が認定する「えるぼし」の最高位(3つ星)を取得



「女性管理職比率」



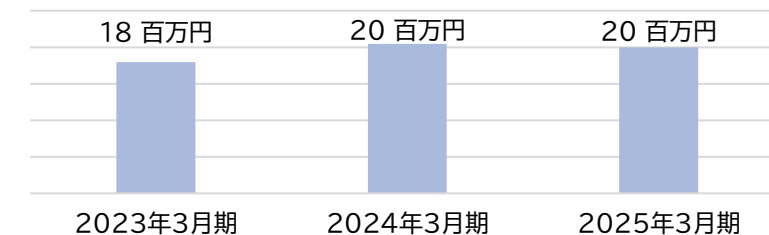
「女性施工管理者の増加」

- 施工現場の環境整備を推進
- 「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり

人材育成

- 全ての従業員に各種研修や資格取得奨励をはじめとした教育や育成の機会を提供し、能力を高める取り組みを推進

「教育研修費」の推移

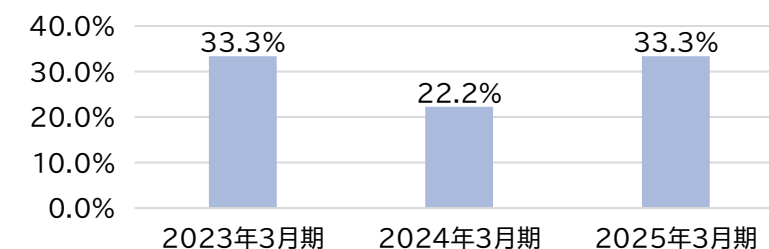


働きがいと働きやすさの向上

「健康経営」の推進

- 健康課題の把握
- 健康経営の実践に向けた土台作り
- 健康づくりに向けた具体策

「男性育休取得率」の向上



5.サステナビリティへの取り組み

- 当社がもつ強みや技術を活かし、事業を通じて社会的課題を解決していくとともに、環境・社会・経済のサステナビリティに関する取り組みを推進し、中長期的な企業価値の向上と誰もが安心できる豊かな未来の実現へ貢献します

環境 E

【当社の製品や工法を通じた環境対策】

- 被災した尼子山トンネルの復旧に関わる応急復旧工事やコンクリート補修、土木耐震せん断補強（RMA）等によるインフラの長寿命化、維持管理
- 無機系注入材や重金属対策製品をはじめとする環境対応製品/施工の開発
- 土木耐震せん断補強（RMA）を通じて、上下水道施設の機能性強化
- トンネル周辺の水環境保全の取組み（ウォータータイト）
- 従来の素材を変更し、環境負荷の軽減を可能とする製品や工法の開発（Me工法/SNエコモルタル他）
- 壁や屋上の建築物に、直接接着剤で貼り付ける太陽電池（Haru-PV）を開発



【事業活動を通じた再エネ・CO₂削減・資源循環・省エネ】

- 施工現場での環境対策
 - 環境に配慮した建設資材の利用とリサイクル・リユースの促進
 - 騒音対策や水質汚染の防止
- 技術研究所、流通センターでの太陽光発電の利用

社会 S

【人的資本経営の強化】

- 働き方改革の推進（労働時間の適正化やWLBの実現）
- 健康経営の推進（健康経営優良法人認定の継続）
- 従業員、協力企業を対象にしたコンプライアンス教育
- 国家資格取得にむけた教育支援の促進
- ダイバーシティの推進
 - 女性の活躍推進
施工現場の環境整備、また「建設小町プロジェクト」など女性が能力を発揮できる仕組みづくり
- 奨学金支援制度の導入

【社会貢献活動】

- 現場周辺のクリーン活動や災害時の地域救援活動
- 「こども本の森 中之島」への継続した寄付
- 被災地、ひと、地域をつなぐ市民参加型合唱「レクイエム・プロジェクト」への特別協賛



【安全・安心のための品質管理の推進】

- 労働災害ゼロへの取組み強化
- ISO9001マネジメントシステムの継続
- COHSMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証拡大



ガバナンス G

【実効性のあるガバナンス体制】

- 取締役会の機能性強化
- コンプライアンスの強化（定期的なリスク管理の徹底と意識向上）
- グループ各社・協力会社との適切な協働
 - コンプライアンスや人権意識啓発の共有
- ステークホルダーとの対話拡充

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



5. 経営戦略トピックス

研究開発① トンネル掘削工事の自動化

- トンネル工事の自動化に向けたロックボルトや補助工法の資材・施工システムを開発
- 作業員が切羽や高所などの危険個所へ接近することなく安全に施工できる技術
- 苦渋作業の低減

ロックボルト自動打設関連の製品・技術

- ロックボルト自動打設用TD24繋ぎボルト:機械施工でも簡単に連結可能な3m+3mのロックボルト連結システムを開発したことで、ロックボルト長6m打設を実現
- MASHボルト:異形棒鋼の片端に特殊ヘッドを加工することでナットを必要としないロックボルトを開発(共同開発:株式会社フジタ)
NETIS登録番号:KK-240114-A
- RPE施工の自動化システム:RPEロックボルトの挿入・注水作業機械化するためにドリルジャンボのガイドシェルに取り付けるユニットおよび施工システムを開発完了し、自動化用ドリルジャンボへの搭載を検討中(共同開発:株式会社熊谷組)
- バレットカプセル:ロックボルト打設用に削孔されたボアホールに、エアー圧送できるセメントカプセルと圧送システムを開発中



「ロックボルト自動打設用TD24
繋ぎボルト」



「MASHボルト」

「RPE施工の自動化システム」
試験施工状況



補助工法自動打設関連の製品・技術

- AGF-プッシュコネクト:AGF鋼管の接続をネジ式ではなく、ソケット挿入とすることでドリルジャンボのガイドシェルでの簡単接続を実現
- 採用実績15件

『ワンタッチで接続。』
AGF鋼管の接続作業を省力化。

施工性
向上

安全性
向上

AGF プッシュコネクト

「接続作業」を省力化。

『AGF-プッシュコネクト』は、AGF鋼管の接続部をソケット挿入としたことにより、ガイドシェルで接続することができます。

- 従来のネジ方式の作業に比べ、簡単に接続することができます。
- 構造上、緩みが発生しない構造となっています。
- ソケットを用いることで従来のネジ方式よりも高い接続強度を有します。

「AGF プッシュコネクト」 諸元			
形状(mm)	素材	引張強度(kN)	重量(kg/m)
φ114.3, t=4.5	STK490	400	12.2
φ114.3, t=6.0	STK400	400	16.1

鋼管のねじ込み回転作業無し！
緩み防止のネジ部の叩き作業無し！

ソケット

(イメージ図)

KEG 株式会社 ケー・エフ・シー

研究開発② i-Constructionへの試み

■ 防水シート溶着部の品質管理試験のICT化

SMERTチェッカー（防水シート溶着部品質管理試験のICT化）

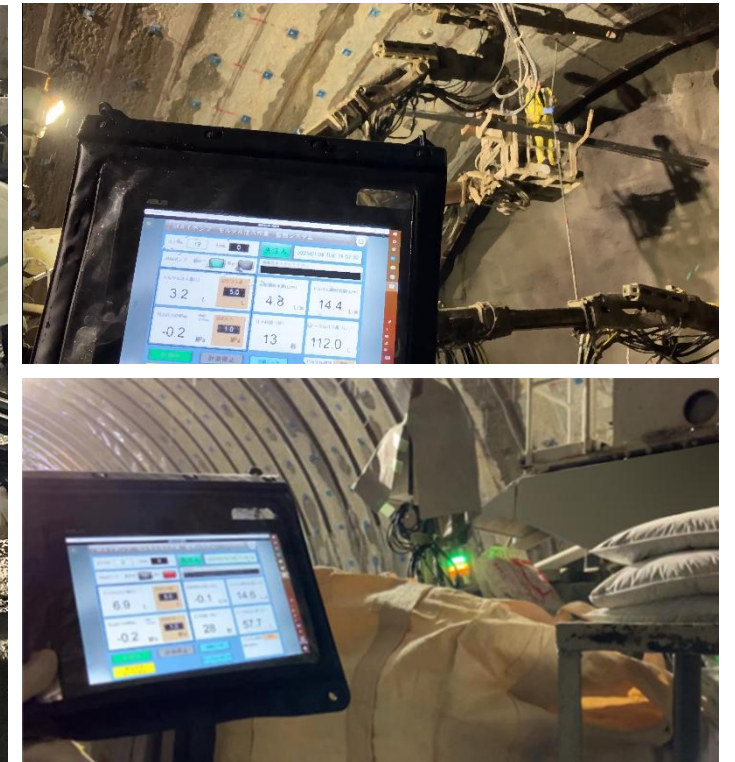
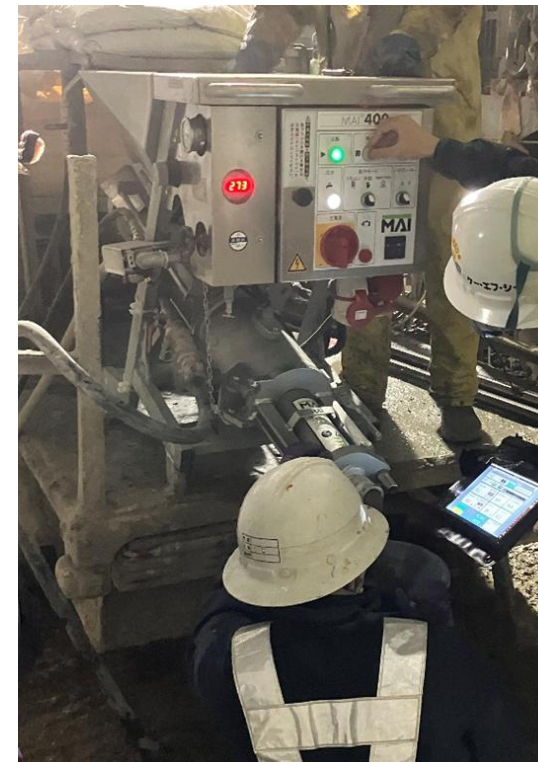
- SMERTジャッキに続き、防水シート溶着部の加圧・負圧試験装置をICT化
- デジタル圧力計を採用することで自動で合否判定・黒板表示・帳票出力を可能
- 小型のバッテリー式エアポンプを採用することにより、省力化に貢献
- NETIS登録番号: KK-240096-A



■ MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システム

モルサポ（MAIポンプ専用モルタル流量算出システム）

- MAIポンプ専用設計のモルタル流量算出システムで、固練りのモルタルにも対応
- 先充填/後注入どちらの充填方法にも対応
- タブレットで計測データの確認・操作が可能
- 計測精度±5%を確認



研究開発③ 非排水型トンネルの安全・品質向上を実現する技術

- 鉄筋組立の作業性向上
- 防水シート貫通部の止水性確保
- 採用実績1件、施工開始前受注物件2件

防水シート貫通部を完全止水する新技術『インテロック』

- 近年の研究により、貫通部の漏水メカニズムが概ね解明されました。インテロックはその漏水メカニズムに対応できる唯一の貫通型鉄筋金具
- 安定性、壁面との垂直性に優れた貫通型を使用することにより、高水圧(0.8MPa以下)や、大断面トンネルなどにも対応
- 独自の止水システムにより0.8MPaまでの水圧にも対応

NETIS登録番号 KT230270

特許出願中

共同開発：鹿島建設株式会社



- 全面接着による防水性向上
- 特殊加工により、異種材料との接合可能
- 断面変化部、立坑と横坑との接続も異材で解決

化学接着性防水シート『フィットライナー®』と異種材料による新防水工法

- 従来、異種材料との接着が困難とされたシート防水材において化学接着性加工により異種材料との接合が可能
- 断面変化部や、立坑と横坑との接続など従来技術では施工が困難な箇所も吹付けなどにより容易に処理可能
- 【独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構】による整備新幹線建設プロジェクト推進における防水工の技術公募にてA評価「適用の可能性が高い」を頂きました



● 高い水密性

モルタルと防水シートの水密性試験

1MPaで加圧
(水頭差100m相当)

モルタル柱

ポラスストーン

〈フィットライナー®〉



水みちは確認されず

品番:KV-200

公益財団法人
鉄道総合技術研究所

所見「十分な水密性を有しているものと判断される」

新製品（インフラ維持管理）

- ## ■ 施工後も覆工コンクリートの変状が確認できる補強方法

ガイナSHシートボード工法

- 接着剤と含侵材を別工程で施工するため作業員の熟練度に左右されない
- 軽量でフレキシブルであり取り扱いが簡単
- 目付量が最大1200g/mm²まで可能
- 帯状配置でも全面接着と同等の耐力を確保可能
- 補強後のひび割れ進展などを継続して目視確認可能
- 全面接着と比べて経済性に優れる
- NETIS登録KT-230046
- 施工実績1件



	従来工法（CFRP工法）	所与シートボーナ工法
構造図	接着剤 接着剤を塗布して所与シートを貼付し、接着剤の硬化に待つ。	接着剤 接着剤と所与シートを同時に塗布し、接着剤の硬化に待つ。
品質	下地処理、不接合正が十分な場合は、シートへの剥がれが発生する可能性がある。 シート貼付後、接着剤硬化期間が未経過時に、風圧等の影響により、剥がれ落ちる可能性がある。	粘着性が強く、セパレータとの付着性に優れる樹脂を接着剤としているため、シートに接着剤が欠けにくく、シートへの浮きや剥がれの割合が少ない。 セパレータのフック部の効果により、接着剤が硬化した状態で、剥がれにくくなることとなる。
施工性	全面設置が基本のため、設置後の工の範囲による影響が大きい。	「棒状」棒子状に設置するため、未施工箇所での工の範囲が可変。
漏水	全面設置の場合、漏水の漏れにより、剥がれ・剥がれが発生する。	「棒状」棒子状の設置のため、漏水による剥がれ・剥がれが少しい。
耐久性	「ハバレイアウト」による浸透のため、作業者の作業量や作業頻度が大きく影響する。	「粘度」が低く、毛管現象に優れる樹脂を接着剤としているため、作業工程の短縮が、作業者の負担軽減に役立つ。

- ## ■ 漏水対策製品

ガイナ水平導水樋工法

- 漏水が車道や歩道に流れ出さないため、滞留水(凍結)による転倒やスリップ事故の予防になる
- メンテナンス、清掃が簡単で維持管理費用の縮減に貢献(取り外す必要がない)
- 壁面が汚れにくくなるため、トンネルの美観が改善
- NETIS登録KT-240041-A



5. 経営戦略トピックス

インフラ補修・補強への事業展開強化

■ タイ王国インフラメンテナンス市場へ参入

海外インフラメンテナンス市場への製品販売展開

合併会社ASIAM Infra Co.,Ltd.(タイ)による市場開拓

海外ブランド『NINJA』シリーズによるインフラ補修・補強事業展開 日本の技術を海外へ

- 昨年度第2四半期に設立したインフラメンテナンス事業を行う
合併会社ASIAM Infra Co.,Ltd.によるメンテナンス市場への販売展開
- 当期より本格的に営業展開、NINJAシリーズ製品のひとつであるNINJA MESHを
タイ高速道路公社へ販売・施工、また、栈橋の補強として炭素繊維シートを用いた
補強工法であるNINJA CF SHEETが採用され、販売・施工。
各製品ともタイ王国にて初納品
- インフラ構造物の点検・調査に関わる技術支援
- 現地企業向け自社メンテナンス製品の研修会を開催
- 耐震診断、地震モニタリングの検討をスタート
- タイ運輸省道路局主催高速道路技術カンファレンス「iCHE2024」に出展
- 「The Roads & Traffic Expo Thailand 2025」に出展

橋梁調査



NINJA MESH



NINJA CF SHEET



現地企業向け研修会

技術の力で人と未来を支える

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ケー・エフ・シー

電話:03-6402-8250/e-mail:kfc.ir@kfc-net.co.jp
(担当:佐竹)

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。